

## 光の道路清掃

道路清掃活動／周南支部

# クリーンアップ作戦で地域をきれいに！

毎年7月に実施される「クリーン光大作戦」は、自治体、公民館、婦人会、学校など光市の市民が総動員で行う清掃活動です。光市建設業協会でもこの活動に積極的に参加し、地域への貢献に努めています。

平成18年7月9日、「第33回ク

リーン光大作戦」が実施され、小雨が降る中、早朝からたくさんの方の皆さんが、室積や虹ヶ浜の海岸、島田川などの河川、自治会等の清掃活動を行いました。すでに33回を迎えるこの活動は、年々参加人数が増え、今では数百人の人が参加しています。今回の活動でも、早い人では朝6時半から作業され方もおられ、手際の良い作業と地域の方々の協力で、3時間もすると、ほぼこのエリアで



雨の中、手際よく作業を進めます

も片づけが始まりました。光市建設業協会からは会員18社より社員が参加し、周南土木協会とともに、トラックでのゴミの収集、運搬などにあたりました。「クリーン光大作戦は、市をあげての一致団結したボランティア活動で、本当に素晴らしいと思いますよ。地域の人々の中に強い繋がりを

感じます。」と話されるのは、井建設(株)の兼崎正純さん。その繋がりは同協会においても同じで、台風など災害があったときには、連絡網ですぐに連絡を取り合い、突然のことでも30〜40名の人数が集まるそう。市から要請が入ってから、約1時間半で500以上の土嚢が用意できるというから驚きです。光市を流れる島田川は、魚の種類が多いほか、季節によりさまざまな水鳥が訪れることでも知られており、冬にはウミネコも渡来します。一方で、大雨や台風時には、オーバーフローによる被害も深刻なもの。土地の低い場所では浸水被害が出ることもしばしばです。「玄関に土嚢を数個積むだけで、浸水を免れることもあるんです。地元の業者は土地勘を熟知しているから、適切な対応ができる。仕事の面では互いに切磋琢磨するラ



兼崎正純さん

イバル会社であっても、地元を守るという気持ちは同じですから、みんな結束してやってくれて感動します。頭が下がる思いですよ。」また、クリーン光大作戦や災害時の連絡網など、会社として積極的に地元へ貢献するという体制は、若い社員の皆さんにも根付き、常日頃からの心構え、責任感の意識付けに繋がっているそう。兼崎さんは、土木を志す若い人達にぜひ地元で活躍して欲しいと願っています。「荒れた山や川の整備など、地域に本当に必要なものはたくさんあります。それを分かっているのは、やっぱりそこで生活をしている人々。若い人達は、アイデア



トラックによるゴミの収集・運搬



みなさんの心がけて住みよいまちに

核家族化や少子化など、人との繋がりが希薄になりつつある現代だからこそ、地域の人と手を取り合って、一人一人が町のことを考えることが、よりよい未来をつくるっていくきっかけになるんですね。清掃に参加された光市の皆さん、本当にお疲れさまでした。

やエネルギーに満ちあふれいますから、ぜひそのパワーと一緒に地元を盛り上げていきたいですね。住み良い町というのは一人の力では到底つくれない。一つの会社だけでもだめ。行政、民間、地域のみんなですっかりと話し合って、もつともつと住み良い安全な場所にしていきたいと思えます。」兼崎さんの言葉には、とても温かい響きがありました。